

4月30日(木曜日)「ソロモン(2)神への願い」

【新改訳 2017】

Ⅰ 列王記 3・5—28

「その夜……主は夢のうちにソロモンに現れた。神は仰せられた。『あなたに何を与えようか。願え。』ソロモンは言った。『……わが神、主よ。……私は小さい子どもで……知りません。……善悪を判断して……さばくために聞き分ける心を……与えてください。……』」(5-9節)

夢の中での話ですが、ソロモンは重要な意味のある体験をしました。この願いをよしとされた神は、次のように答えられました。

「あなたがこのことを求め、自分のために長寿を求めず、自分のために富を求めず……敵のいのちも求めず、むしろ、自分のために……判断力を求めたので……見よ。わたしはあなたに知恵の心と判断する心とを与える。……そのうえ……富と誉とを……与える……」(11-13節)。

ソロモンは、自分のために何を求めるべきかを知っていました。それは主のみこころに沿うものでした。ゆえに、彼はどの王も比べることはできないほどの祝福を受けたのです。みこころにかなう祈りは祝福をもたらすのです(Ⅰヨハネ5・14)。

～祈り～

主よ。どうか、ソロモンのように、自分の分をわきまえた、みこころにかなう祈りができるようにお導きください。

【学びのために】

夢の中での啓示:昔、神は、人の夢の中で、あるいは夢を通して、神のみこころを知らされたり、象徴的な示唆を与えたりされました。今日も、それは皆無とは言えませんが、すべて聖書の教えに照らして判断されなければなりません。